



事務連絡  
令和2年11月27日

各〔都道府県〕  
〔保健所設置市〕 衛生主管部局 御中  
〔特別区〕

厚生労働省医薬・生活衛生局生活衛生課

「冬場における「換気の悪い密閉空間」を改善するための換気の方法」の  
周知について

今般、厚生労働省新型コロナウイルス感染症対策推進本部において、冬場における「換気の悪い密閉空間」を改善するための換気の方法に係るリーフレットが公表されました。

つきましては、貴管内の特定建築物所有者等に対して本リーフレットを周知いただき、引き続き、建築物における衛生的環境の確保に関する法律(昭和45年法律第20号)等に基づき、適切に御対応いただきますよう、よろしく御願います。

なお、建築物における衛生的環境の確保に関する法律施行令(昭和45年政令第304号)第2条に規定する建築物環境衛生管理基準における居室の温度の基準は「17度以上28度以下」であるところ、本リーフレットでは、国際機関の基準等を踏まえ、「温度を18度以上に維持すること」とされていることに御留意ください。

<参考>

冬場における「換気の悪い密閉空間」を改善するための換気の方法

(令和2年11月27日公表)

[https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage\\_15102.html](https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_15102.html)

## ～ 商業施設等の管理者の皆さまへ ～

# 冬場における「換気の悪い密閉空間」を改善するための換気の方法

外気温が低いときに、「換気の悪い密閉空間」を改善する換気と、室温の低下による健康影響の防止を両立するため、以下の点に留意してください。

- ✓ 「換気の悪い密閉空間」は新型コロナウイルス感染症のリスク要因の一つに過ぎず、一人あたりの必要換気量を満たすだけで、感染を確実に予防できるわけではなく、人が密集した空間や密接な接触を避ける措置を併せて実施する必要があります。

## 推奨される換気の方法

### ① 窓の開放による方法

換気機能を持つ冷暖房設備※や機械換気設備が設置されていない、または、換気量が十分でない商業施設等は、以下に留意して、**窓を開けて換気**してください。

※ 冷暖房設備本体に屋内空気を取り入れ口がある（換気用ダクトにつながっていない）場合、室内の空気を循環させるだけで、外気を取り入れ機能はないことに注意してください。

- 居室の温度および相対湿度を**18℃以上かつ40%以上**に維持できる範囲内で、**暖房器具を使用**※しながら、**一方向の窓を常時開けて、連続的に換気**を行うこと。

※ 加湿器を併用することも有効です。

- 居室の温度および相対湿度を18℃以上かつ40%以上に維持しようとすると、**窓を十分に開けられない**場合は、窓からの換気と併せて、**可搬式の空気清浄機を併用**すること。

### 窓開け換気による室温変化を抑えるポイント

- ◆ **一方向の窓を少しだけ開けて常時換気**をする方が、室温変化を抑えられます。窓を開ける幅は、居室の温度と相対湿度をこまめに測定しながら調節してください。
- ◆ 人がいない部屋の窓を開け、廊下を經由して、少し暖まった状態の新鮮な空気を人のいる部屋に取り入れること（**二段階換気**）も、室温変化を抑えるのに有効です。
- ◆ **開けている窓の近くに暖房器具を設置**すると、室温の低下を防ぐことができますが、燃えやすい物から距離をあけるなど、火災の予防に注意してください。

## 空気清浄機を併用する際の留意点

- ◆ 空気清浄機は、**HEPAフィルタによるろ過式**で、かつ、**風量が毎分5m<sup>3</sup>程度以上**のものを使用すること。
  - ◆ 人の居場所から**10m<sup>2</sup>(6畳)程度**の範囲内に空気清浄機を設置すること。
  - ◆ 空気のおどみを発生させないように、外気を取り入れる風向きと空気清浄機の風向きを一致させること※。
- ※ 間仕切り等を設置する場合は、空気の流れを妨げない方向や高さとするか、間仕切り等の間に空気清浄機を設置するなど、空気がよどまないようにしてください。

## ② 機械換気(空気調和設備、機械換気設備)による方法

必要換気量を満たすことのできる**機械換気設備等が設置された商業施設等**は、以下のとおり換気を行ってください。

- 機械換気設備等の外気取り入れ量等を調整することで、**必要換気量(一人あたり毎時30m<sup>3</sup>)**を確保すること。
- 冷暖房設備により、居室の温度および相対湿度を**18℃以上かつ40%以上**に維持すること。

## 参考

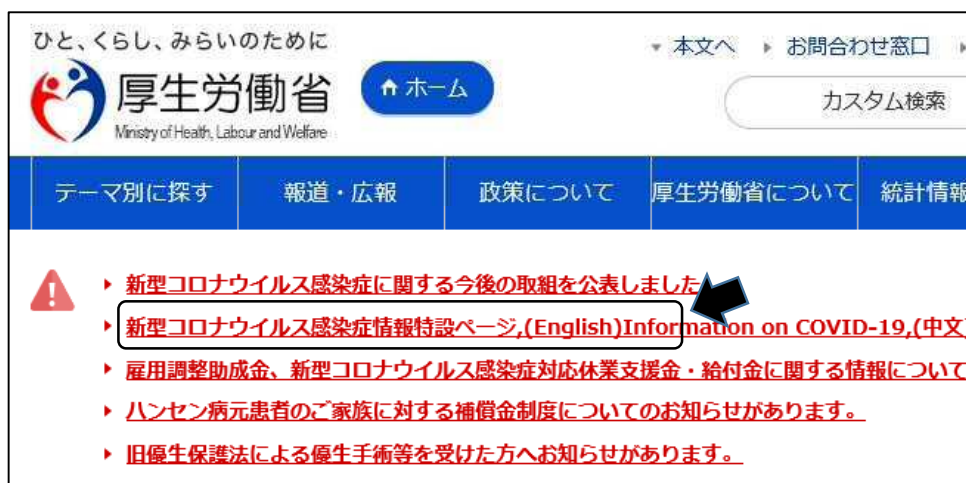
必要換気量を満たしているかを確認する方法として、二酸化炭素濃度測定器を使用し、室内の二酸化炭素濃度が1000ppmを超えていないかを確認することも有効です。

- 測定器は、NDIRセンサーが扱いやすいですが、定期的に校正されたものを使用してください。校正されていない測定器を使用する場合は、あらかじめ、屋外の二酸化炭素濃度を測定し、測定値が外気の二酸化炭素濃度(415ppm~450ppm程度)に近いことを確認してください。
- 測定器の位置は、ドア、窓、換気口から離れた場所で、人から少なくとも50cm離れたところにしてください。
- 測定頻度は、機械換気があり、居室内の人数に大きな変動がない場合、定常状態での二酸化炭素濃度を定期的に測定すれば十分です。
- 連続測定は、機械換気設備による換気量が十分でない施設等において、窓開けによる換気を行うときに有効です。連続測定を実施する場合は、測定担当者に測定値に応じてとるべき行動(窓開け等)をあらかじめ伝えてください。
- 空気清浄機を併用する場合、二酸化炭素濃度測定は空気清浄機の効果を評価するための適切な評価方法とはならない※ことに留意してください。

※ HEPAフィルタによるろ過式の空気清浄機は、エアロゾル状態のウイルスを含む微粒子を捕集することができますが、二酸化炭素濃度を下げることはできないためです。

「換気の悪い密閉空間」を改善するための換気の方法に係るリーフレットの掲載場所について

- 1 厚生労働省のトップページ (<https://www.mhlw.go.jp/index.html>) の「新型コロナウイルス感染症情報特設ページ」をクリックする。



- 2 「新型コロナウイルス感染症について」 ([https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000164708\\_00001.html](https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000164708_00001.html)) のページの「政府の取組等」の項目の「感染拡大防止と医療提供体制の整備」にある「クラスター対策」をクリックする。



- 3 「クラスター対策」( [https://www.mhlw.go.jp/stf/covid-19/kansenkakudaiboushi-iryouteikyuu.html#h2\\_6](https://www.mhlw.go.jp/stf/covid-19/kansenkakudaiboushi-iryouteikyuu.html#h2_6) ) の資料一覧の中に、「換気の悪い密閉空間」を改善するための換気に関するリーフレット及び参考資料が掲載されている。

## クラスター対策

国内では、散発的に小規模に複数の患者が発生している例がみられます。濃厚接触者を中心に感染経路を追跡調査することにより感染拡大を防ぎます。

国内での感染の拡大を最小限に抑えるため、小規模な患者の集団（クラスター）が、次の集団を生み出すことを防止することが重要です。

※「小規模患者クラスター」とは感染経路が追えている数人から数十人規模の患者の集団のことです。

- ▶ [「新型コロナウイルスクラスター対策班の設置について」](#)（2月25日）
- ▶ [PDF「新型コロナウイルスの集団感染を防ぐために」](#)（3月1日）【PDF形式：557KB】
- ▶ [新型コロナウイルス感染症対策専門家会議の見解（クラスター対策）](#)（3月2日）
- ▶ [PDF「新型コロナいま、拡げないために」](#)（3月2日）【PDF形式：139KB】
- ▶ [クラスター対策に資する情報提供に関する協定（LINE）](#)
- ▶ [PDF「換気の悪い密閉空間」を改善するための換気の方法（リーフレット）](#)（4月3日改訂）【PDF形式：278KB】
- ▶ [PDF「商業施設等における「換気の悪い密閉空間」を改善するための換気について](#)（3月30日）【PDF形式：746KB】
- ▶ [PDF「熱中症予防に留意した「換気の悪い密閉空間」を改善するための換気について](#)（6月17日）【PDF形式：1019KB】
- ▶ [PDF「熱中症予防に留意した「換気の悪い密閉空間」を改善するための換気の方法（リーフレット）](#)（6月24日）【PDF形式：803KB】
- ▶ [PDF「冬場における「換気の悪い密閉空間」を改善するための換気について](#)（11月27日）【PDF形式：600KB】
- ▶ [PDF「冬場における「換気の悪い密閉空間」を改善するための換気の方法（リーフレット）](#)（11月27日）【PDF形式：1.1MB】